

も っ と 知 ろ う よ ! オ キ ナ ワ !

第26回 2019年度沖縄調査報告

兵庫県弁護士会会員・元当会憲法問題対策センター事務局長 西田 美樹 (54期)

2020年1月31日から2月2日にかけて実施された、毎年恒例の人権擁護委員会沖縄問題対策部会による沖縄調査に参加してきた。今年は、川村前副会長を筆頭に、人権擁護委員会だけでなく、沖縄に関心のある参加者や、第二東京弁護士会からも参加しての道中となった。

県庁にて

最初に訪れたのは沖縄県庁だ。シーサーや沖縄紅型が見守る玄関ホールを通り抜け、会議室へ。

そこで、県庁辺野古新基地建設問題対策課の方から、辺野古新基地問題についての説明を聞いた。日本の国土面積の0.6%しかない沖縄県に米軍基地が集中している現状。しかも、日本本土の（便宜上、「本土」という用語を使わせていただく）反基地運動の高まりとともに、本土から沖縄へ海兵隊が移転したり、復帰当時、日本国内の基地の57%だったのが70.3%に増大しているなど、沖縄の過重な負担の現状を伺った。

また、普天間飛行場は、元々役場があり、人々の生活の営みがあったところに飛行場がつけられたものであり、飛行場ができてからその周りに人が住み始めたわけではないことを強調されていた。本土では、こういうことすらもわかってもらっていないと強調していた。

辺野古について、「新基地」と呼んでいる理由についても説明があった。普天間飛行場と辺野古では、規模が全く違う。辺野古では、沖縄の負担は増大するばかりで、本土との格差が固定するだけなので、新基地と呼んでいるとのことであった。

辺野古のある大浦湾の特殊性についても説明があった。大浦湾は、ジュゴンの生息地としても知られているとおり、非常に多様な生物種が暮らしている。

その数は、世界遺産に登録された小笠原諸島の4400種を上回るとも言われている。

現在の進捗状況や、県がこれからどのように国と交渉しようとしているかなど、熱っばい説明を聞いた。

辺野古の軟弱地盤についても、国の工法、それに対する県の対応について、どのようなことが考えられるかなど、質疑応答を交えて、実りある議論ができた。

沖縄戦によるPTSDについて

沖縄戦によるPTSDについて研究している元沖縄県立看護大学教授の當山富士子氏から、沖縄戦によるPTSDについてのレクチャーを受けた。

戦争とPTSDというと、ベトナム戦争での米軍兵士の戦時後遺症からメジャーになったように、兵士のPTSDがクローズアップされることが多いように思われる。

しかし、激しい地上戦が行われた沖縄では、被害住民にもPTSDの症状が出ているということが、最近の研究で明らかになった。大きな物音を聞くと怖い、よく眠れないというようなものから、フラッシュバックが起きる、精神疾患を発症した方まで、症状は様々だったが、戦争さえなければという思いを強く感じた。

また、沖縄に基地があること故にいつまでたっても癒やされないPTSDもあった。米軍関係の報道が毎日のようにされ、それに接するとフラッシュバックが起きたり、基地近くにお住まいで、常に爆音にさらされ、そのたびに不安な思いをして家から出られなくなったり…。戦後75年を経てもなお癒やされない傷に、沖縄戦の悲惨さを感じた。

また、この研究を進めていくことによって、なぜ自



琉球セメントの安和棧橋の土砂搬入口での抗議活動



瀬嵩灯台跡の高台から大浦湾を見下ろす

分が不安な思い、つらい思い、フラッシュバックが起きるのがわからなかったが、戦争のせいだということがわかって心が軽くなったという方がいるというのが、救いだった。

護郷隊の碑

護郷隊（ごきょうたい）をご存じだろうか？ 陸軍中野学校が、沖縄陥落後も本土決戦を遅らせるためゲリラ戦、スパイ戦を続けようとして結成した秘密組織である。沖縄島北部の兵役前の少年、中には国民学校在学中の少年を集めて訓練し、沖縄の山中でのゲリラ戦をするために訓練した組織である。秘密組織という性質故、これまであまり知られることがなかった。碑もひっそりと目立たないところに建っていた。

年端のいかない少年たちに重い責任と忠誠を誓わせた当時の陸軍の苛烈さ、少年たちの思い、送り出す家族の思い、様々なことを考えさせられる碑だった。

辺野古見学

海は、まだまだ美しかった。埋め立てられているのは、まだ1%。「勝つためにはあきらめないこと」という旗が力強くテントに貼られていた。

土砂の搬入・搬出状況について

辺野古に持っていく土砂を搬入・搬出している安和棧橋の見学に行った。遠くから、堀越しに見学した。ダンプトラックが赤土を持ってきてベルトコンベアに

乗せる。私たちが見ている間にも、何台も何台もダンプトラックがベルトコンベアに到着する。あの赤土が、美しい海にぶちまけられる…？ 無残な情景が頭の中によぎっていった。

正門に回ると、反対派がトラックの出入りに抗議の活動を行っていた。文字どおり体を張って、トラックの前を牛歩戦術で横切っておばあ。ゆっくりゆっくり、だけど止まらず横切っていく。トラックは前に進むことができない。警備員もなすすべもない。横切ったら次は別の人。1分でも1秒でも埋め立てを遅らせたいという気持ちがひしひしと伝わり、横断してきたおばあと思わず握手をしてしまった。

埋め立ての現状と辺野古埋立の問題点についてのレクチャー

土木技師の奥間政則氏にレクチャーをしていただいた。市民30人集まれば、訓練を中止させる力がある、理論で武装するんだという言葉が印象的だった。

全体を通しての感想

沖縄はもう何回目になるだろうか。大浦湾にスキューバダイビングで潜ったこともある。生態系の豊かさというのは、肌で知っている。

それでも、沖縄に来るたびに新しい発見がある。一生心に残しておきたいと思う言葉に出会う。今回も、そんな言葉に出会った。

来年は、もっと多くの会員が参加して、一生心に残しておきたい言葉に出会ってほしい。